

ふるさと尺の内公園の自生植物を用いた屋上緑化の 5 年間

三浦憲人（ホシザキ野生生物研究所）

ふるさと尺の内公園は 2016 年度より周辺に自生する在来植物を用いた植栽を行っている。その一環でそれまで茅葺きであった管理棟を園内と周辺の自然環境の中での景観や統一感を考慮した草屋根の建物へと立て替えを行った。その屋根の植栽は 33 種類、約 7000 株の自生在来植物を用いて行った。

管理棟の屋上緑化をはじめてから 5 年が経過して、33 種類のうち 12 種類は順調に株数を増やし、また 13 種類については株の数は多いとは言えないものの、生育を確認することができている。一方 8 種類については生育を確認できなくなった。そして新たに 12 種類の生育を確認することができ、現在は 37 種類の植物を屋上で確認することができている。これら 37 種類のうち、特に優占しているのはイネ科のカゼクサとチガヤ、そして球根植物であるヤブカンゾウとノビルであった。一方カワラナデシコ、ウツボグサ、ホタルブクロは屋根の植栽を行った当初に比べると著しく減少していた。しかし、それぞれの植物の種類によって数の増減はあるものの、屋上の緑化が十分に維持できている。

草屋根の維持管理を行う中で草を刈るときの草丈の高さ（草丈 60～80cm, 40～60cm, 約 10cm）に差をつけたところ、その高さによって優占する植物に違いが見られた。例えば、草丈を 60～80cm で維持した場所ではヒヨドリバナやヤマハッカなど草丈が高い種類の生育を確認することができたが、反対に草丈が低いナキリスゲなどは減少していた。一方草丈を 40～60cm で維持した場所ではナキリスゲの減少は見られなかった。



尺の内公園管理棟屋根で確認した植物 37 種類（2023 年）